

## 岐阜医療科学大学における国際教育

竹田 真由\*

### はじめに

岐阜医療科学大学は岐阜県関市郊外にキャンパスがあり、臨床検査学科の他に、診療放射線技術学科、看護学科、助産学専攻科、保健医療学研究科大学院を有する大学である(詳しくは本誌第10巻第2号 教育機関紹介をお読み頂けると幸いです)。本学は神野学園グループの医療系大学であり、同グループの中日本自動車短期大学、中日本航空専門学校とともに国際交流に励んでいる。本稿では、本学の国際交流として行っている短期留学による語学研修を紹介する。

### I. 海外研修プログラム

本学は「国際性」を身に付けた質の高い医療人の育成の一環として、学生が以下の技術や姿勢を磨けるよう、「ハワイ短期留学」と「フィリピン短期留学」の2つの短期研修を実施している。

- ①英語による情報を的確に理解し、そこで得た知識や思考を学習・研究に生かす技術

- ②英語で情報や自分の考え、研究成果を発信できる技術  
 ③国際感覚を持って他者と積極的に交流する姿勢  
 ④外国語能力を通じて、多文化共生社会の医療現場で、適切な対応を取れる技術  
 ⑤相手を理解する努力を惜しまず、自ら進んで援助の手を差し伸べる姿勢

#### 1. ハワイ短期留学

3月中旬から2週間にわたって、ハワイ州・ホノルル市のカピオラニ・コミュニティ・カレッジ(KCC)での研修を行っている。対象は全学部の1~3年生と専攻科生としているが、2年生以上での参加を勧めている。英語の学習に専念し、2週間ですできるだけ多くを習得することを目的としているが、専門分野の実習や病院見学を通じて、米国の医療に関する考え方や取り組み方についても学ぶことができる。滞在中は、午前中に一般英語と医学英語を学習し、午後からは病院見学や高齢者施設への見学を行っている(写真1)。また、医療実習として、現地の放射線学科の学生とともに



写真1 現地の施設訪問

\*岐阜医療科学大学保健科学部臨床検査学科 mtakeda@u-gifu-ms.ac.jp

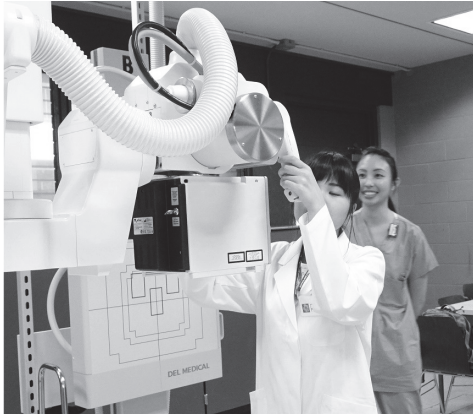


写真2 現地での医療実習

学ぶことができる(写真2)。さらに、イオラニ宮殿見学やハワイアンカルチャーワークショップなどを行うことによって、ハワイの大自然や文化に触れることで地理・歴史等、幅広い教養を身につけることができる。その他、休日には買い物や食事を通して現地の人と会話をする機会を設け、学生が自ら英語を使うように担当教員がフォローしながら、2週間を過ごしている。なお、英会話II(中級)1単位と、単位互換のシステムを確立していることもあり、科目数の多い2年次に教科を一つ減らすことができるため、参加希望学生は毎年多数となっている。

## 2. フィリピン短期留学

9月上旬から2週間にわたって、フィリピン共和国・タギク市のエンドラン大学(Enderun Colleges)での研修を行っている。この研修は学園全体を研修対象としており、本学は学部1~3年生と専攻科生としているが、同グループ校からの参加学生とともに研修を受けることとなる。研修においては、教師1対学生1で学習できる時間が多いので、どの英語レベルの学生に対しても十分に話す機会があることは良い点である。また、エンドラン大学に正規留学している他国学生を交えて、社会学をテーマとした講義と討論形式の授業があり、海外の大学の通常の授業を経験することができる。さらに授業だけでなく、エンドラン大学の学生と交流を深めるイベントの開催や、休日には観光や買い物などを通して、フィリピンの文化に



写真3 学生が撮影した風景

触れることで地理や歴史にも触れる機会がある。本校においては、英会話I(初級)1単位と単位互換のシステムを確立しており、今年の9月には臨床検査学科の1年生が参加している。

## II. 教育効果と学生の感想

本研修は2週間という短い期間のため、充実した研修となるように、事前準備として英語の課題が出されている。しっかりと予習に取り組んでいる学生もいる一方で、海外へ行くことを目的としている学生もいるため、語学研修であることを学生に認識させなければならない。研修担当者は、研修中よりも事前準備にかなりの時間を要しているが、この準備を行うことで学生の達成度もかなり高くなっている。

ハワイ短期留学に参加した学生からは、海外での生活が充実していたことや、日本の暮らしやすさを再認識したことなど、様々な感想が聞かれる。「英語」という科目に対して苦手意識のある学生が、英語を「使う」機会を得たことは、大きな意味をもつと考えられる。また、この9月にフィリピン短期留学に参加した学生からは、1枚の写真を提供頂いた(写真3)。学生自らが英語でコミュニケーションをとって「カレッサ」という馬車に乗り、観光している際に撮影したものである。英

語は苦手であったが、難しく考えずに話せば伝わるがあったと話しており、学生が英語を使うことに抵抗のない状況を作り出せるのは、海外研修ならではの考えられる。

#### さいごに

学生が日本に留まることなく、海外にも目を向けるような広い視野を持つために、この海外研修はよい機会であると考えられる。しかし、研修期

間も終わり、時が過ぎて卒業研究が始まると、英語論文に拒絶反応を示してしまうこともある。英語をもっと身近に使えるような環境を整えていけば、この研修がより実りあるものへ変わるのだろう。本学では、オーストラリアへの短期留学も開始予定であり、さらなる留学制度を設けていくことで、学生が異文化に触れる機会を増やしていきたいと考える。